

令和5年 2月 28日 14時	
資 料 提 供	
担 当 課	和歌山県立博物館 学芸課
担 当 者	学芸課長 前田正明
電話番号	073-436-8684

## 歴史のなかの「川と人とのかかわり」を紹介

### 企画展「川とともに生きる -川と人の関係史-」の開催について

人々は、川から水を引いて作物を育て、川を利用して船で物資を運びました。日照りが続き水不足になると、川の水をめぐる争い、物資の輸送が盛んになるにつれて、その権益をめぐる争いが起こることもありました。一方、大雨が続いたり、台風が来襲したりすると、川が増水して、時には堤防を越えて屋敷や田畑が浸水する洪水の被害を受けることもありました。近年は温暖化の影響もあって、集中豪雨などによる水害が頻発しているといわれています。

この企画展では、紀州の歴史における川と人のかかわりを、さまざまな資料から紹介します。

会 期 令和5(2023)年3月11日(土)～4月23日(日) 展示日数38日  
会 場 和歌山県立博物館 企画展示室  
開館時間 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
入館料 一般280円(230円)、大学生170円(140円)  
( )内は20人以上の団体料金  
高校生以下、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方、  
県内に在学中の外国人留学生は無料  
毎月第1日曜日は無料(会期中では、4月2日)  
休館日 月曜日

【展示構成】Ⅰ 名所・伝説を描く Ⅱ 人と物を運ぶ Ⅲ 水の恵みと水争い  
Ⅳ 水害の記憶を後世に伝える Ⅴ 発掘された慈尊院堤防  
展示資料総数 41件98点  
(うち重文1件1点、重文(附)1件1点、和歌山県指定1件1点)

関連企画(詳細はチラシをご覧ください)

ミュージアム・トーク(展示解説) 各回 13時30分～14時30分 企画展示室  
3月11日(土)、21日(火・祝)、4月2日(日)、8日(土)、16日(日)  
入館の手続きをお済ませのうえ、企画展示室にお集まりください(事前申し込み不要)。  
新型コロナウイルス感染症流行の状況により、中止になる場合があります。

[添付資料]チラシ、出陳資料目録、展示のみどころ

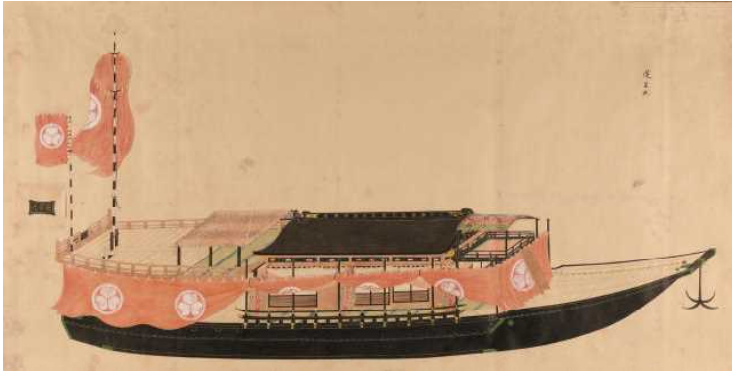
画像データは、下記のアドレスにご連絡いただければ送付いたします。

admin@hakubutu.wakayama-c.ed.jp(博物館メールアドレス)

担当者 県立博物館学芸課 学芸課長 前田正明  
〒640-8137 和歌山市吹上1-4-14  
(TEL 073-436-8684 FAX 073-423-2467)

## 【企画展 川とともに生きる-川と人の関係史- 展示のみどころ】

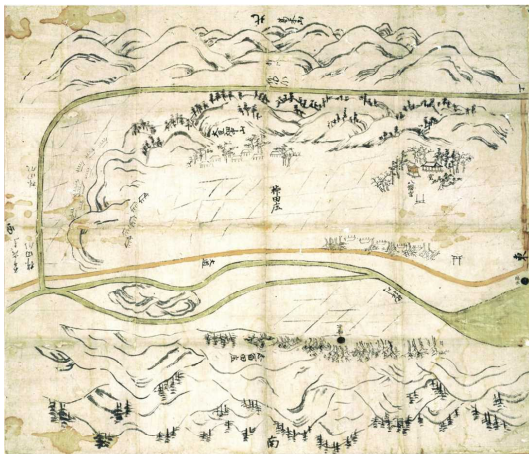
①紀伊藩主が参勤交代や遊覧に使用した御座船のうち、河川用の船(蓬萊丸)の絵です。



ほうらいまる ず  
蓬萊丸図 個人蔵 (資料番号12)

紀伊藩主専用の川御座船(御召船)である蓬萊丸を描いたもの。作者は不明であるが、紀伊藩のお抱え絵師とみられる。船の中央部分には屋形がみえ、船尾の幔幕や船印には「三つ葉葵」が使われている。船名額(「蓬萊丸」)は、船尾まん中のデッキのうに掲げられている。

②柿田荘と西隣の静川荘との水争いで、柿田荘に有利にするため神護寺にあった絵図を写しました。



きいのくにかせだのしょう え ず  
重要文化財 紀伊国柿田荘絵図 宝来山神社蔵(資料番号26)

中世柿田荘の景観をシンプルな構図と図様で描いた絵図である。画面右寄りに八幡宮と堂、近景の山々には樹木が描かれ、4か所に集落がみえる。神護寺(京都市)にも同じ構図で、12~13世紀に作成された絵図がある。本図は、延徳3年(1491)頃に静川(穴伏川)からの取水権をめぐる柿田荘(かつらぎ町)と静川荘(紀の川市)との争いが起こり、柿田荘が自らの主張を有利にするために作成した神護寺本の写しである。江戸時代初頭に改竄が行われた痕跡が4か所みられる。

③被災してから20年以上経ったのち、「水害の記憶」を忘れないように描かれました。



めいじにじゅうにねんすいがい え ず ばいほうひつ  
明治二十二年水害絵図 梅峰筆 長野八幡神社蔵(資料番号36)

明治22年(1889)8月19日降り続く大雨で、山すそにあった八幡神社の社殿が、川の増水で被災しそうなり、氏子7人が大雨のなか、ご神体を抱えて避難させる様子を描く。右下に「梅峰」の署名と落款がある。その左側に当時の被災状況を書いた「水害記」が記されている。大正10年(1921)現在地に移築された社殿が描かれていることから、被災から20年以上経ったのち、「明治大水害の記憶」を後世に伝えるために、本図が描かれたとみられる。